

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市将監児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・ 令和3年度 18,481人（前年度比 120.8%） ・ 令和2年度 15,296人 ・ 令和元年度 25,220人		
	《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 37,688千円 (38,331千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「自分の気持ちを表現しながら様々な人々と交流し、地域の中に過ごしやすい居場所を広げられるよう支援する児童館」を重点目標に掲げ、日々の館運営に取り組んでいます。今年度も感染対策を取りながら日常の遊びをいかに保障し交流活動をしたらよいか模索する中で工夫して活動を進めています。「児童健全育成事業」では、カレンダー作りやバランスボールの行事を子支クさんと共催で実施しています。「子育て家庭支援事業」では、隣接のコスモス将監保育園や併設のサンホームとも連携した行事及び子育て相談の機会を設けています。さらに子育て支援クラブ、人形劇サークル、読み聞かせボランティアとの共催行事(かっきー広場など)を通して、親子のふれあいと癒しの時間を確保しています。「地域交流推進事業」では、将監地域全体を視野に入れて将監児童センター、将監西児童館と3館協力してドキドキタイム(幼児親子行事)の企画を行い、七夕飾りを地域関係団体へ寄贈したり、正月遊びなどの行事を通して、地域の方々と交流する活動を設けたりしています。また、地域の外部講師をお招きし、小学生対象のタヒチアンダンスや造形遊びなど魅力ある活動を実施しています。さらに、新しい複合施設に向けた4館連携行事「みんなのふれあい公園」プロジェクトに子どもから大人まで参加交流し、地域の中に過ごしやすい居場所づくりに努めています。「放課後児童健全育成事業」では、自分の思いや考えを相手に伝えられるよう、4月のオリエンテーションや毎日の帰りの会等を活用して様々な言葉遊びや読み聞かせなどを年間通して力を入れて実施し、コミュニケーション能力を高められるよう取り組んでいます。また、児童クラブ説明会では、児童館をより知っていただくため動画などを活用して子ども達の様子をわかりやすく説明しています。その他、定期的に写真を掲示して、日常の児童クラブの様子が見られるように努めています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置などの発令があったが、児童クラブに関しては、年間を通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部休止していたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、小学生対象に地域の臨床美術の講師を招き、夏のアート作品作りを行った。アクリル絵の具を用いて模様や絵を描く活動を通して子ども達の豊かな感性を育んだ。また、恒例のさつまいもを育てる活動では自主的にお世話し、成長を待ち望み収穫の喜びを味わった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、年齢別の定例行事をそれぞれの発達に合った多彩なプログラムを提供し参加者から好評を得ている。特に近隣の保育園の子育て支援室と連携し、保育士と親子の触れ合い遊びを通して参加者が話しやすい雰囲気作りに努め、子どもと子育てを支える環境作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、将監三館連携事業「ドキドキタイム」での七夕、ハロウィンなどの活動は子育て支援クラブの協力で行われ、各児童館を中心に地域の多世代交流が図られ、児童館の取り組みが地域活性の一躍を担っている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、帰りの会などの発表の機会を設け、子ども1人ひとりが自己の感情を伝える事、表現できる事を大切に支援している。また、その為の年齢相応の語彙力を身に付けられるように読み聞かせや言葉遊びを日常的に行った。そのことにより生活や遊びの場面で表現の不適切さから生じる子ども同士のトラブルが減少するなど集団の生活が安心安全なものとなっている。その他、表現活動として「にんじゃになるんじゃ」や造形あそびweekなど様々な自己表現の機会を設けている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課